

佐々木宏・鳥山まどか 編著

『教える・学ぶ——教育に何ができるか』(2019年3月刊)

訂正表

上記書籍の第7章(中澤渉=執筆)の図版に誤りがございました。それを修正するに伴い、文章も大幅に変更する必要が生じました。深くお詫びするとともに、以下のように訂正させていただきます。

- 186頁の図1を以下に差し替える(※元の図からの変更箇所は、(A)のラベルを取り、元の(B)を(A)とし、新たに(B)として、「公立学校は信頼できる。」を加えた)。

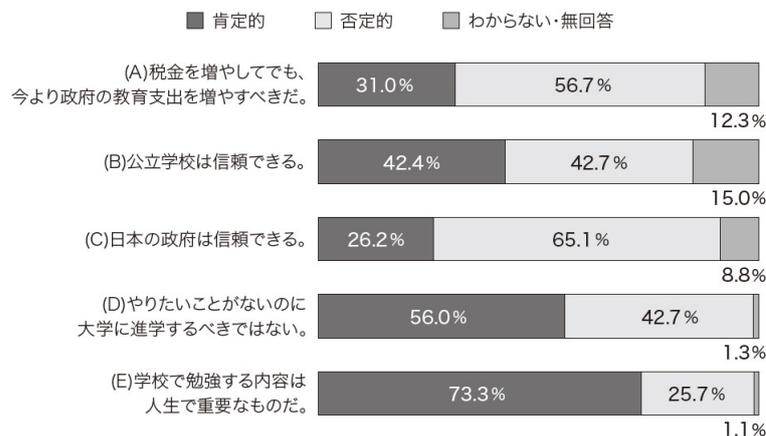


図1 教育に関する意識の分布 (N=2,893)
出所: ESSM2013調査

- 186頁 最終行~187頁 1行目:「大学進学機会は、家計による不平等の存在があることが多くの人の間では認識されている。」は削除する。
- 187頁 10行目: (B)を(A)と修正する。
- 189頁 表2: 一番左の列を以下のように修正する。
 - (A)大学教育機会平等 → (A)政府教育支出増
 - (B)日本政府信頼 → (B)公立学校信頼
 - (C)政府教育支出増 → (C)日本政府信頼
- 189頁 3~4行目:「大学進学機会も平等にあるとは認識していないが、」は削除する。

- 189 頁 9 行目：「公教育費」を「公立学校」と修正する。
- 189 頁 10～11 行目：「クラス 2 は政府への信頼感が強く、公教育費の増額を期待している。」を「クラス 2 は、政府や公立学校への信頼感が高い。」と修正する。
- 189 頁 12～13 行目：「大学進学機会が平等にあるという認識はクラス 3 がやや多く」を「クラス 2 と 3 では相対的に教育費負担増を許容する人が多く見えるが、それでも半分程度であり」と修正する。
- 191 頁 5～6 行目：「ここで重要なのは、社会的に恵まれた層は、大学進学機会が平等であると認識しがちであり、逆に恵まれていない層は不平等の存在を意識している。」を「ここで重要なのは、社会的に恵まれた層は学校の重要性を強く認識しており、相対的に公教育費の増加を求める声が多いとは言えるものの、その声は多数派を占めるには至っていない。」と修正する。
- 191 頁 6 行目：「その状況」を「現状」と修正する。
- 192 頁 後ろから 4 行目：「クラス 2」を「クラス 3」と修正する。
- 193 頁 5～6 行目：「しかも厄介なことに、相対的に豊かなクラス 2 や 3 の半分くらいは、大学進学に不平等があることを認識していない。」は削除する。